

鴻池運輸株式会社

IBM i(AS/400)、Tableau、ServiceNow等と連携し、業務効率化を実現 3種類のETLツールをWarpへ統合し、運用コストの削減と業務の属人化を解消

鴻池運輸株式会社は「統合革新(インテグレート・イノベーション)」という事業コンセプトを掲げ、物流工程を含めたバリューチェーン全体の統合・最適化を目指し、革新的なサービスを創出している。同社では、会計システムを中心に3種類のETLツールでデータ連携を使い分けていたが、1つのツールの保守切れを機に、複雑化していたETL環境をASTERIA Warpに統合した。まずは、会計システムや物流システムなど業務システム間のデータ連携をASTERIA Warpへ移行。データ分析基盤であるTableauとも連携し、また新たに導入したSalesforceやServiceNowとの連携フローもスムーズに構築した。現在は約300本のフローが稼働しており、日次・夜間処理を含む迅速なデータ連携を実現。実行設定のトラブルも少なく、常に安定稼働している。

導入背景

- 3種類のETLツールを用途別に使い分けていたため、ツールごとの運用が煩雑化し、ライセンスコストが増加していた
- 既存のETLツールはコーディングが必要だったため、学習コストが高く、連携処理の属人化も進んでいた
- 使用していたETLツールのうち1つが保守切れを迎えたことを契機に、ETLツールの統合を検討

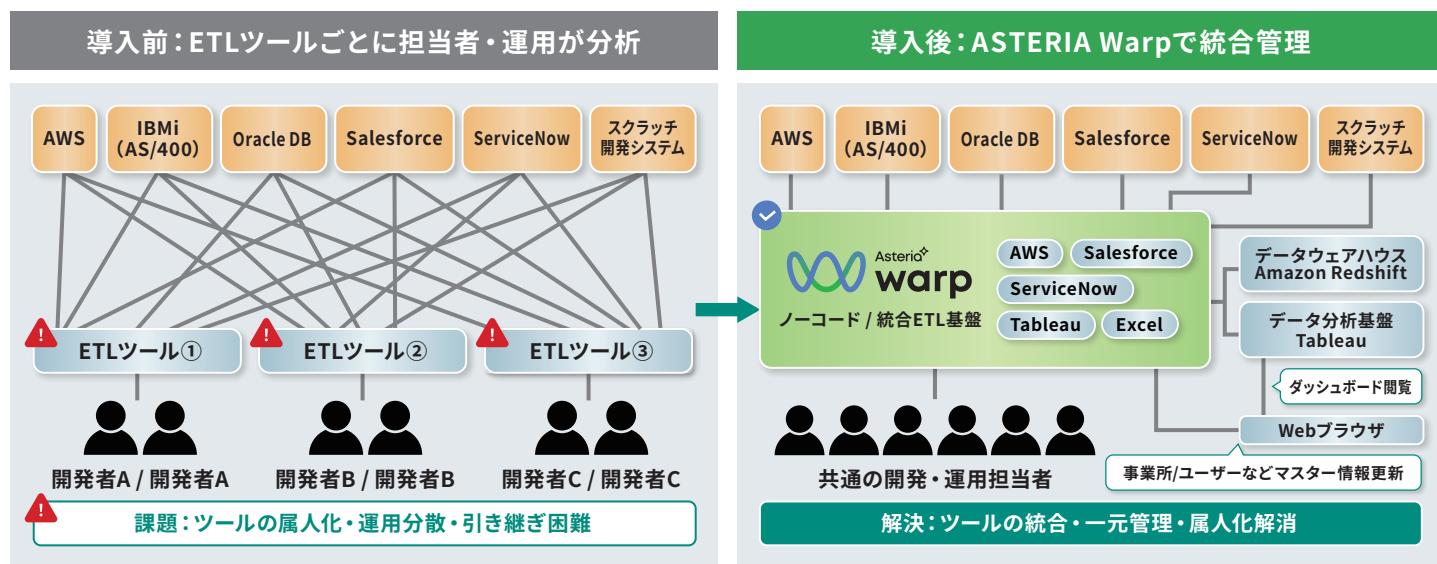
選定ポイント

- ノーコードツールであるため学習コストが低く、ユーザーサイトなどで情報が多く蓄積されているため、開発・運用時の課題解決がしやすい
- 多様なシステムと接続可能なアダプターが豊富に用意されており、将来的に接続先が増える場合にも対応が容易
- 国内ベンダーによるサポート体制が整っており、運用やトラブル対応の面でも安心して利用できる

効果

- IT部門で年2回、6時間程度かけて手作業で行っていた会計システムのマスター更新を、経理部門で実施可能に。IT部門への依頼が不要になり、任意のタイミングで更新できるようになった
- ServiceNowでは、会社・事業所・ユーザーなどの各種マスターを自動で取り込み、PCライフサイクル管理を効率化した
- 複数のETLツールを統合したことでの開発・ライセンスコストを大幅に削減。属人化の程度も改善され、運用負荷が軽減している

システム概要



ユーザーのひと言



ASTERIA Warpはアダプターの種類が豊富で、特にWebの管理コンソールは、エラー発生時に表示色で判断できるなど、直感的に利用できる点が気に入っています。以前は各ツールの担当者が分かれていたため属人化が進んでいました。しかし、ASTERIA Warpは誰にでも簡単に使えるため、この問題も解決できました。既存システムではすでに多くの業務改善効果が出ています。今後もDXの進展にあわせて、新たなシステムを導入する際には、そのデータ連携ニーズにもASTERIA Warpで対応していきたいと考えています。

鴻池運輸 エンタープライズシステム部 部長 長岡 数郎 様
 鴻池運輸 エンタープライズシステム部 副長 向井 航一 様
 コウノイケITソリューションズ SI1部 課長 一戸 一史 様

User Profile



KONOIKE
GROUP

所在地：大阪府大阪市中央区伏見町4-3-9

会社概要：鉄鋼事業、エンジニアリング事業、食品関連／定温物流事業、食品プロダクト関連事業、生活関連事業、メディカル事業、空港事業、国際物流事業、インド事業

業種：運輸・物流業

URL : <https://www.konoike.net/>